

14 跡部の踊り念仏



指 定 国重要無形民俗文化財
 平成12年12月27日
 所在地 跡 部
 所有者 跡部踊り念仏保存会



鎌倉時代中期、弘安2年（1279）に時宗の開祖一遍上人が、佐久郡伴野荘に来て、小田切の里で踊り念仏を始行してから、佐久の各地でこの行儀が行われたが、跡部の踊り念仏はその古い姿を伝えたものである。

南無阿弥陀仏の称名を始め数種の和讃を称えながら、棺台と同形の道場の中に、鉦を胸につけた踊り手数人が順次交替して入り、1人の太鼓方を中心に、その周囲を回りながら、踊ったり跳んだりして、いわゆる恍惚無我の境に入る。用具は道場の施設・鉦・太鼓2面、鉦は各人が1個ずつ持ち、太鼓は2面を1人が扱う。服装は本来自由であり、出演者には年齢・性別に制限はない。

時宗の踊り念仏は、昔は各地で行われていたらしく、用具の残っていたところも少なくないが、現在これを演奏できるのは跡部の西方寺で行われるものだけである。